

大学の授業で行う「試行的進路相談面接」が 教職を目指す学生に与える影響

—「学校カウンセリング基礎論」におけるワークシートの内容分析から—

Effects of “Trial Career Counseling” Carried out in University Classes on Students Aiming at
Becoming School Teachers: From the Worksheet Content Analysis Carried out During the “School
Counseling Basic Course.”

岡 本 吉 生
Yoshio OKAMOTO

大学の授業で行う「試行的進路相談面接」が 教職を目指す学生に与える影響

—「学校カウンセリング基礎論」におけるワークシートの内容分析から—

Effects of “Trial Career Counseling” Carried out in University Classes on Students Aiming at Becoming School Teachers: From the Worksheet Content Analysis Carried out During the “School Counseling Basic Course.”

岡 本 吉 生*
Yoshio OKAMOTO

Abstract The purpose of this study is to examine the effects of “Trial Career Counseling (TCC),” a kind of role-playing method, carried out in classes during the School Counseling Basic Course on students who are aiming at becoming school teachers after graduation. Career counseling/guidance is a very common situation in which school teachers use counseling techniques. The TCC is done systematically for learning the basics of counseling. Paired participants play the alternative roles of a teacher and a pupil, and then the person acting as the pupil evaluates the TCC interview. The contents written in the worksheets submitted by the students were categorized, and the effects of TCC on the participants were examined. It showed that TCC made students realize the difficulties of counseling and aware of new subjects on their own, stimulated their sensitivity and emotions and enhanced their desire to become school teachers.

Key words: trial career counseling 試行的進路相談面接, role-playing ロールプレイ, school counseling basic course 学校カウンセリング基礎論, school teacher 学校教師, content analysis 内容分析

問題提起

教職科目である「学校カウンセリング基礎論」の授業の中で実施している進路指導に関するテーマのうち、学生が進路相談面接を試行するロールプレイ（筆者はこれを「試行的進路相談面接」と呼んでいる。以下「試行面接」と略す）の回を取り上げ、筆者による授業方法を具体的に紹介するとともに、試行面接の実施が受講生である学生に学修面でどのような影響を与えるのかを明らかにし、その授業の意義や有効性を検討する。

筆者が学校カウンセリング基礎論の授業で注意を

払っていることは、受講生である学生が心理臨床やカウンセリングの専門家になるわけではなく、あくまでも学校の教師を目指しているということである。シラバスの「授業の概要」部分で、「学校教育において教員は、それぞれの生徒のより良き人格の発達を目指すとともに、生徒ひとり一人にとって有意義な学校生活を送ることができるように支援することが求められる。その支援のために学校カウンセリングは有用と考えられる」と記載してあるのは、受講生が将来教師になった時に、カウンセリング的なアプローチが児童や生徒への教育的支援に役立つと考えることによる。そして、教師がカウンセリングの知見や技術を最も自然な形で活用できるのは、進路指導のときであると気づくに至って後、筆者は、全授業回数のうち3回程度を進路指導に関する

* 家政学部児童学科／家政学研究科児童学専攻
Department of Child Studies/ Division of Child Studies

テーマに充ててきた。

したがって、具体的な授業方法の説明の前に、教師によるカウンセリングと進路指導との関連性を歴史的な視点を交えて簡単に振り返っておく。

教師によるカウンセリングの活用の歴史と進路指導の現代的意義

教師がカウンセリングの知見や技術を最も動員しなければならないのは、歴史的に言って、教育相談の場面である。教育相談は、戦後始まった民主主義教育における生徒指導の充実・強化が推進される中で、学校に公務分掌として位置づけられ、生徒一人ひとりの全人格的な発達のための教師による支援である^{1,2)}。しかし、1980年代ころから、児童・生徒の不登校や、友だち同士のいじめ、小中高生による凶悪犯罪など、当初想定していなかった子どもの様々な心理社会的問題が注目されるようになり、1990年代から手の負えない問題はスクール・カウンセラーに支援を仰ぐようになっていった。それに伴い、教師が中心となって児童・生徒にカウンセリングの専門的な働きかけを行う機会は減少してきたと思われる。

他方、進路指導は、高度経済成長期を経て高学歴化を迎えるなかで、ややもすると進路指導は進学指導と混同されるようになった。教育の目的は全人格の育成にあるにもかかわらず（教育基本法第1条）、情緒教育以上に知育教育が優先されるようになった。ところが、2000年ころからフリーターやニート（Not in Education, Employment or Training, NEET）といった職業的自立ができず生活基盤の乏しい若者が増加し³⁾、その要因に学校時代でのキャリア発達のつまずきが指摘され、その中核をなす進路指導の重要性が再評価されるようになった⁴⁾。

キャリア教育は、自己理解の促進（児童・生徒の興味関心の理解の支援など）、進路情報の提供（キャリア形成の態度の育成や進路選択のための資料提供など）、進路相談（児童・生徒の自己理解の促進、進路計画の立案、決定能力の発達促進など）、啓発的経験の提供（当番活動や学校行事での役割分担、職場訪問やボランティア活動などの機会を提供すること）、追指導（卒業生の進学・就職先への適応援助など）を含む広い概念で⁵⁾、進路指導が子どものキャリア発達に重要な役割を担うと考えられている。

進路指導は、「個々の生徒が主体的に自己の進路を選択、計画し、その後もよりよく適応、進歩できる能力を伸長することにある。……進路指導の本来の目的は、生徒の能力・適性等の発見、開発を前提として、生徒が自主的に進路を選択し、社会的・職業的な自己実現を図るために必要な能力や態度を育成することにある」¹⁾であり、主体となる児童・生徒が自身の能力や適性の発見をするための手助けをする活動である。つまり教師は、児童・生徒が自ら進んで自分の将来を考え、その実現に向けて自身の能力を養い開発するために、支えとならなければならない。

しかし、子どもが自己の能力や適性を知り、発見し、さらに発展させるには、周囲の支えや指導・教育が不可欠であるが、そのためにはカウンセリング的な働きかけが有効であると認識されている。発達途上にある子どもは、自分にどのような職業的適性があり、それを遂行する能力があるのかどうかに気づいていないことも多い。そのようなときにカウンセリングが有効に作用するのは明らかであることは、カウンセリング心理学のルーツが進路相談にあることを思い出せばすぐ分かる⁶⁾。

進路に迷い、望まない進路を選択すると、人は後年に様々なライフサイクル上の影響を受ける。社会との接点を失い、非行や犯罪など社会と葛藤的な関係になることも多い^{7,8,9)}。進路問題は子どもなら誰でも直面する重要な発達上の課題であり、学校教育においてその中心となる教師がカウンセリングの知見や技術を習得する必要性は高い。そこに、学校カウンセリング基礎論の授業で進路指導のテーマを取り上げる必然性がある。

進路指導のテーマの授業組み立てと基本的な考え

筆者は、学校カウンセリング基礎論の全授業のなかで進路指導のテーマを通常3回程度取り上げている（Table 1）。第1回目の授業では、子どものキャリア発達を促す進路指導の重要性を説明したうえで、教師による生徒への進路指導面接のロールプレイを収録したDVDを視聴する。いわゆる観察学習を行う。受講生は、実際に行われる面接場面を見て、教師の接し方次第で生徒の自己探求に明らかな違いがあることを学ぶ。観察学習は面接の手本を知

Table 1 Outline of three series of classes carried out on the theme of career counseling/ guidance

回	テーマ	ねらい	使用する教材
1 回	進路相談におけるカウンセリングの実際	教師と生徒によるロールプレイを視聴して観察学習を行う	教材用 DVD
2 回	試行的進路相談面接の実際	ロールプレイを用いて進路相談面接を体験的に学ぶ	ワークシート
3 回	進路指導における心理アセスメントの活用	人の職業意識とその発達に関する概念を客観的情報から学ぶ	心理テスト

る絶好の方法であるが、漫然と見ているだけでは気づきに乏しいことが多いので、筆者は、教師が生徒との面接において学ぶべき態度として、Rogers¹⁰⁾の提唱したカウンセラーとしての3つの基本的態度（受容、共感、自己一致）を教えることにしている。DVDの視聴後に、教師がロールプレイでどれくらいその基本的態度に沿って面接をしていたかを受講生に評定させる。その後さらに、教師役から面接意図と生徒役の面接に対する印象を聴くと、受講生が個人として抱く印象と実際にロールプレイを行った者が抱く印象との照合ができる。

第2回目の授業が本論文で取り上げる試行面接である（後述）。

第3回目は職業意識やキャリア発達に関する理論や客観的・診断的理解の実際の方法を学ぶ。そのための道具として、Holland¹¹⁾によって開発されたVPI（Vocational Personality Inventory）という職業興味検査を実施している。VPIは、実際の職業指導にも活用可能なものであるが、それを学生自身が自分を素材にして行うことで職業の概念やその背後にあるパーソナリティの概念を学ぶことができる。

このように、3回の授業を系統的に組み立てることで、受講生の進路指導に関する理解は相当に進むとの印象を筆者はもっている。「どんな知識を得るか」よりも「どのようにできるか」を重視する実践型の学問では、講義による学修に加えて体験による能動的な学修体験が必要である。進路指導のテーマで筆者が行っている授業は一種の体験学習であるが、体験学習が「日常生活の中であまり意識せずに学んでいる学び方を教育方法として構造化したもの」¹²⁾と、個人の体験をベースにするのに対して、筆者による一連の方法は、カウンセリングや心理療

法の世界で培われてき基礎理論や基本的技法をベースにし、その上に個人の経験を加える方法であり、両者に基本的な考え方の相違がある。

試行的進路相談面接の実際

ここでは、進路指導のテーマの第2回目の授業で行う「試行的進路相談面接の実際」と称する授業内容と展開方法について紹介する。

受講生は全学科の学生が対象である（現在は、幼小課程と中高課程の学生が別々に受講している）。授業のねらいは、Rogers¹⁰⁾によるカウンセラーとしての基本的態度（受容、共感、自己一致）を試行面接で活用してみることである。ただし、これらの基本的態度を特段の訓練なしににわかに行うのは難しいため、より具体的な技法を提案しているイーガンによるSOLER法¹³⁾を加えて教えている。SOLERとは、誠実に（Squarely）、心を開いて（Openly）、関心を寄せて（Lean）、アイコンタクトをして（Eye Contact）、リラックスして（Relax）の英語の頭文字である。

概ね、Fig. 1のような手順で試行的進路相談面接のロールプレイを展開している。以下、その説明をする＜＞内は補足説明である。

- (1) 最初に、学生一人ひとりにワークシート（Fig. 2）を配布する。＜このようなワークシートは自分が今何をしているのか、これから何があるのかを理解する助けとなる。＞
- (2) ワークシートの最初の項目に、自分のなりたと思う職業をいくつでも記入する。そして、「多ければ多いほどよい。現実的でなくても全

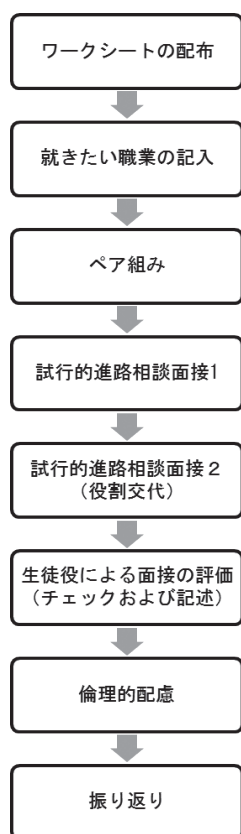


Fig. 1 Procedures of Trial Career Counseling

然かまわない」と教示する。＜正業に就いたことのない学生が大半であるため、次回の授業で実施する VPI で用いられる職業一覧を裏面に印刷しておく、学生の職業記入の参考となる。「なりたい職業は何でも書く」などと教示するのは、受講生の興味の範囲やキャリア発達のベースと好悪レベルの内容を知り、試行面接の際の話題の広がり役に役立つ。また、現実的でない職業を含むことは、パーソナリティ・レベルでの特徴を把握する手がかりとなる。＞

- (3) 受講生は2人1組でペアを組み、それぞれ教師役と生徒役を決める。生徒役となった者のワークシートを教師役となった者に渡し、試行面接を開始する。面接態度については、SOLERを意識するよう指示するが、受講生が初学者であることを考慮して、「自己流でもよいが、とにかく誠心誠意を形にしてほしい」と付け加え、

1 あなたが思いつく限り何でもよいですから、将来やってみたいと思う仕事（現実的なものでも、非現実的なものでもかまいません。）をできるだけたくさん書いてみてください（生徒・クライアント役用）。

2 試行的進路面接相談の実施（役割を交互に交替する）

3 あなたのパートナーにこの用紙を渡して、以下の①、②を記入してもらう。

①「あなたのカウンセラー（この用紙の持ち主）の態度を、次の5段階で評価してください」（あてはまるところの数字に○をつけてください。）

	5	4	3	2	1
誠実に一所懸命話を聴いてくれた	5	4	3	2	1
自分のこととしてわかってしてくれた	5	4	3	2	1
評価なく何でも受け入れてくれた	5	4	3	2	1
心を開いている感じがした	5	4	3	2	1
親しみを感じた	5	4	3	2	1

②あなたのパートナーの、カウンセラーとして良かった点、こうすればもっと良かった点について、率直に正直に記入してください。

4 本日の授業のレポート

Fig. 2 Worksheet used in Trial Career Counseling (sample)

あまりプレッシャーをかけすぎないようにする。それと同時に、「本当に自分が教師になった時のように、真剣に生徒の話を聞くようにすること。恥ずかしがらないで実感を込めて本気で聞くこと。生徒役になったほうも同じ」と動機づける。＜多人数クラスでの演習では講師による細かい観察や指導ができないので、受講生人の構えや自覚を高めることは必須である。また、2人はできるだけ向かい合って座り、間に物などをあまり置かないなど、面接において非言語的なメッセージの果たす役割についても示唆する¹⁴⁾。＞

- (4) 次に、教師と生徒役を交代して、(3)と同様に試行面接を行う。面接の始まりと終わりは講師がしっかりと仕切り、ロールの実行中とそうで

ない時の区別を明確にする。時間配分は(3)と同一になるように配慮する。＜区切りは、学生がロールを真剣に行うための心理的枠組みとなり、安心して試行面接に取り組むために重要である。＞

- (5) (4) による面接が終了したら、生徒役となった者は教師役の行う面接を2つの方法で評価する。一つは、「とってもそう」から「まったくちがう」までの5件法による評定で、全部で5項目である。もう一つは、面接の良かった点や改善点についての自由記述である。評価を終えたらワークシートを本人に返す。＜2つの評価は、同じベアへのものなので、遠慮などバイアスのある評価である。しかし、ここで重要なのは、評価の正確性以上に受講生が他者からフィードバックを受ける経験をすることであり、それが試行面接にわずかの緊張感と真剣味を与える。＞
- (6) すべてが終了したら、「今日のロールプレイは個人的な内容が含まれるので、守秘義務を課す」と倫理的配慮を行う。

受講生によるワークシートへの記入結果

筆者の手元にあった2クラス91人分(3年次生女子)の結果を対象とする。授業は、2クラスとも同一プロセスによって実施したので、これら2クラス分のワークシートを合せた結果を報告する。

(1) 就きたい職業

「できるだけたくさん書いてください」という指示を受けて、受講生は、裏面に印刷されている職種サンプルを参照しながらも、それ以外の職種(たとえば、宇宙飛行士、花火師、スタントマン、葬儀師など)を自由に記入していた。記入した職種数は一人当たり0～23(無記入(0)だったワークシートは遅刻者によるものであり、記入する時間的余裕がなかったものと思われる)で、平均は8.5(標準

偏差4.24)であった。

(2) 生徒役から見た教師役面接の評定(5件法)

ワークシート内の3にある5項目(①誠実さ(Squarely), ②関心を寄せ、わかろうとする姿勢(Lean), ③受容(acceptance), ④心を開くこと(Openly), ⑤親しみやすさ(friendly))の評定結果は、すべて満点に近い値であった(Table 2)。5項目の総計(25点満点)も同様に、平均点は24.3(標準偏差1.09)であった。

(3) 生徒役から面接見た教師役の良かった点と改善点(自由記述)

全般に、「親しみをもてた」「聞いてくれた」と好意的な評価が記載されていた。「アドバイスが欲しかった」と助言を求めたり、「先生から見た職業観が聞けたら」と教師役の価値観の開示を求めたり、「性格や幼少の頃のことをもっと聞いてもらえると、より話しが進められると思います」と生徒役の個人的な事情に触れた質問を希望する者もいた。

(4) 「本日の授業のレポート」欄の結果と分析

「本日の授業のレポート」欄が試行面接を行った体験についての感想等が書かれていた部分である。記入された内容を筆者が繰り返し読み、特徴的記述を要素に分解しキーワードを抽出するなどして、主に内容分析(content analysis)の手法を用い¹⁵⁾、合理的説明が可能となるようなカテゴリー化を行った。その結果、記入内容、「困難さの記述」「課題の自覚」「ロールプレイ体験」「教師の行うカウンセリングという意識」に大きく分類でき(以下、「大分類」)、その下位項目を「小分類」として、そこにどのような内容を含めたかについて次に説明する。Table 3はこれらの分類を一覧したものである。文中、小分類のカテゴリー名は【 】で囲んで表記した。

Table 2 Evaluations of teachers' interviews by pupils

	誠実さ	関心を寄せ、...	受容	心を開くこと	親しみやすさ	総計
平均	4.96	4.81	4.82	4.88	4.87	24.3
標準偏差	0.21	0.42	0.44	0.33	0.34	1.09

Table 3 Categories written in the worksheets and examples

大分類	小分類	記入例
困難さの記述	感覚的印象	「いっぱいいっぱい」「戸惑った」
	基本的態度	「共感して、高圧的な態度にならないこと」
	具体的な行動	「目を見て話すこと」
	面接の進め方	「一歩前に出て導くこと」
	目標達成	「相手のニーズを察しながら提案する」
	知識不足	「仕事に関する知識が不足している」
課題の自覚	自分の性格特性	「カウンセリングに苦手意識がある」
	カウンセラーの基本的態度	「相手が何を考えているのかをもっと意識していこう」
	知識不足の補充	「事前に調べておく」「情報提供ができるようになること」
	日常生活での努力	「ふだんから関わりを持って心を開く」
ロールプレイ体験	面接体験の重要さの実感	「今日の経験は貴重と思った」
	試行面接の体験に対する肯定的な印象	「ロールプレイ、すっごく楽しかったです」「先生の何げない言葉も生徒には大きいことがわかった」
	ペアを組んで2つの役割を体験することの意義	「ペアで行ったので、これは実にいい方法だと、新しい発見ができました」
教師としての意識	教師になることへの意欲	「自分も親身になれる教師になりたい」「自分が教師になった時も、将来について語るような楽しさを味わってもらえたらと思う」
	教師になった時の不安	「もしロールプレイでなかったら」

(4-1) 困難さの記述

受講生の記述で最も頻繁に用いられていたのは「思っていた以上に難しかった」という言葉である。想像以上の困難さは、単に印象を述べて文章が終了している場合もあるが、多くは面接技術に困難さを感じていたり、知識不足を実感したり、自己の性格として困難を感じたと明細化していた。

印象に終始した場合では、「頭がいっぱい、いっぱいになった」「どぎまぎしました」「戸惑った」などの単発的な言葉で説明を終えた場合の他、「自分（教師役）が真剣に話していても、相手（生徒役）に伝わらなかったり相手が傷ついたりするかもしれないので、カウンセリングは怖いな」と、面接が極めて個人的なことを扱うゆえの危うさに言及した者もいた【感覚的印象】。

また、「相手の意見を否定せず評価なく何でも聞き入れること」「自分とは考えが異なる人の話を受容的に聞くことの大変さ」「真っ白な状態で聞くこと。決めつけにならないようにすること」「共感して、高圧的な態度にならないこと」と、カウンセラーとしての基本的態度【面接技術－基本的態度】や、「目を見て話すこと」「生徒の話をさえぎらないこと」など面接時での具体的な行動【面接技術－具

体的な行動】に関する事柄も含まれた。

さらに、「一歩前に出て導くこと」「話を広げること」「気持ちを引き出すこと」「適切な提案すること」「整理してから話すこと」「（相手が）悩んでいるときにどう聞き出していけばいいのか」「少しの情報をどう結び付けていくか」などと面接の進め方【面接技術－面接の進め方】や、「本音を聞き出し対応すること」「相手のニーズを察しながら提案すること」「選択肢を絞ること」「具体的な意見を聞き出すこと」と目標の達成の難しさ【面接技術－目標達成】の他、「仕事に関する知識が不足している」と職業に関する知識不足を実感した者【知識不足】も少なくなかった。

その他、「自分に偏りがあることを実感した」「私は他人と視線を合わせるのが苦手」「カウンセリングに苦手意識があるので、それを悟られないように気遣った」「コミュニケーション能力のなさを思い知りました」などと、自分の性格特性【自分の性格特性】に触れる者もいた。

(4-2) 自己の課題の自覚

前項(4-1)と対になるが、しかしここでは、困難を感じたことを今後の課題として位置づけている点で前項と異なっている。「生徒が何に悩んでいる

か、何を考えているのかを理解しなければならない」「まず目を見て、リアクションを大きくして、共感的立場に立つことを心がける」「相手が何を考えているのかをもっと意識していこう」との共感的理解や、「受け止めることが課題」との受容的態度を課題として挙げた者や、「人に聞いてもらえる話し方や話す速度を意識すべきとわかった」「カウンセラー側が勝手に道を絞ってはいけませんが、整理してリードすべき」など面接の技術の向上を課題とする者もいた【カウンセラーの基本的態度】。中には「その人の性格や適性をきちんと理解しアドバイスする必要がある」と、進路指導に客観的理解の必要性に気づき、「様々な職種を調べる」「事前に調べておく」「情報提供ができるようになること」など、自身の知識不足を補うための方策【知識不足の補充】を課題にする者もいた。

これらの課題を克服するために、「日頃から広い視野で物事を考えるべきと感じた」「ふだんから関わりを持って心を開く」「普段の友達関係からトレーニング」「日常生活でも共感する」と日常の生活場面での改善努力【日常生活での努力】にまで言及する者もいた。

(4-3) ロールプレイ体験

多くの学生が「大切さを実感した」「今日の経験は貴重と思った」と試行的であっても面接体験の重要性を実感していた。「困難さの記述」とも重なるが、「観察学習でなんとなくイメージできていたが、生徒役の気持ちを考えながらカウンセリングをするというのはとても難しかった」「ビデオを見てみるとできそうだったのですが、やはり実際にやってみると難しかった」「知識よりも実践のほうが見につくと感じました」と面接体験の実践性の重要性を感じていた【面接体験の重要さの実感】。そして、「ロールプレイ、すっごく楽しかったです」「面接相談は少し堅いイメージがありましたが、実際にやってみるととても楽しく、生徒役の子と話すことができました」「楽しくでき、改善していきたいです」「先生の何げない言葉も生徒には大きいことがわかってロールプレイをしてよかった」「10分間だったけど、ロールプレイで気づけることが多かった」「真剣にコミュニケーションを取ることの大切さを知った」と面接体験に肯定的な感情を表明していた【試行面接の体験に対する肯定的な印象】。

「生徒役をしてみて、先生がこういう風に言って

くれたら答えやすいというのが実感できた」「ペアで行ったので、これは実にいい方法だと、新しい発見ができました」と教師役と生徒役の両方の役割を体験する設定の効果に触れた者もいた【ペアを組んで2つの役割を体験することの意義】。その他、「将来のビジョンが定まらずに時間オーバーとなってしまったので、今回はその点を意識したい」と次回授業への期待を表記した者もいた。

(4-4) 教師としての意識

実際に自分が教師になったときの進路相談面接のイメージ化の効果も確認された。多くの者が、「生徒は真剣なので、いろいろ勉強したい」「自分も親身になれる教師になりたい」「生徒の話や考えを少しでも多く引き出し、せかさずじっくり質問して相談に乗れるようになりたい」「教師は生徒の夢を膨らませることが大事」「自分が教師になった時も、将来について語るような楽しさを味わってもらえたらと思う」と、教師になることへの意欲や心構え【教師になることへの意欲】を記述していた。「進路相談面接を受けるような生徒は非常に悩んでいる可能性が高く、誠心誠意でこちらも望まなければいけない。親しみを感じてもらいながら、面接ができるようにしたい」と生徒の立場になり共感的に理解しようとそする気づきを得た者もいた。

また、「もしロールプレイでなかったら」「何も書かず、嘘を書くような生徒もいるとおもうので、大変」「興味のない生徒とのカウンセリングはどうしたらよいのかも考えなければ」と、実際に教師になった時のことを想定して不安【教師になった時の不安】を覚えた者もいた。

考 察

筆者の担当する学校カウンセリング基礎論の教育目標のひとつは、この授業を受講する学生が将来教師となったとき、彼らの進路指導が子どものキャリア発達を促す活動となるように、準備性を養うことである、と考えている。筆者が試行的進路相談面接（試行面接）と呼ぶ学生間のロールプレイの意義や有効性について、「本日の授業のレポート」欄の記述内容を中心に考察する。

第一に、ロールプレイによる体験的学修はDVDの視聴による観察学修とは比較にならないほど受講生に大きな影響を与えているということである。俗

にいう「観るのとやるのとは大違い」ということは、「困難さの記述」において多くの受講生が余裕のなさを訴えたことから明らかである。困難さは面接技術の未熟さや職業に関する知識不足や自己の性格特性まで広い。面接技術や知識不足は適切な訓練と経験の豊富さによって乗り越えられるものであり、受講生もこれらの困難をそのまま自己の課題として挙げている。知識不足は困難だが解決可能な課題であることを示すものである。とはいえ、教師が子どもの適性や将来目標を正確に捉え、子どもを導くことは、実際に必ずしも容易ではないが、教師になった時の実際の進路指導の場面で困難に遭遇した際の解決のためのヒントとなるであろう。

第二に、試行面接におけるロールプレイ体験は、受講生に知的刺激よりも感覚的・情緒的刺激として作用し、感受性や情緒性を活性化するのに大きな影響を与えた。試行面接の体験を、受講生が「すごく楽しかったです」などと生き生きと感想を語っていることからもうかがえる。そして、そのような影響を受講生は「今日は貴重な体験をした」と肯定的に捉えていることから、試行面接が学修意欲の向上により影響となっていることが確認できた。

第三に、この回の授業が教師になることへの自覚や意欲の向上となったことも明らかになった。「自分も親身になれる教師になりたい」とあるように、「教師としてのやりがいは生徒の役に立つこと」という教師としての原点を想起させたようだった。そのためには、生徒役と教師役の2つの役割をリアリティをもって試行面接を経験する必要があるが、それは受講生がロールに「なりきること」によって実現される。「教師になった時の不安」を書いた受講生は極めて少数派であり、たいていは教師になることへの意欲を高める体験となっている。それは、ペアとなった生徒役の受講生から、5件法による評定でも、また記述法によっても、いずれも概ね好意的な評価を受けたことによる影響も少なくないと考えられる。他者からの肯定的な評価は、それを受ける者にとって自尊心の保証となる。「試行的進路相談面接の実際」の項でも述べたように、ペアとなる者同士が肯定的に相互評価する仕組みを整えておくことは、思った以上に多くの教育的効果があるのだと認識した。また、ペアの2人が共に教師役と生徒役の役割を交互に演じることで、評価は同じ立場の者から受けるものとなり、それが評価結果を受け入れや

すくしているようにも思われる。試行面接が有効に作用するには、これらの授業構成や展開上の仕組みが密接に絡んでいることが示唆された。

最後に、今後の課題について触れておく。先に述べたように、試行面接の体験は受講生に、知よりも情、思考より感覚、認知よりも感情を刺激するものであるが、その一方で、カウンセラーの基本的態度や SOLER 法を知識として学ぶことは、受講生に認知的側面を刺激するものである。また、生徒役として教師役の面接を評価することも認知的な作業である。教室が感覚や感情にのみ覆われない、バランスの良い雰囲気作りは試行面接においても欠くことのできない配慮と考えるが、それが受講生にどのような学修効果をもたらすのかについては今後の研究課題である。また、試行面接の時間（現在は1回につき10分程度）を長くしたり面接の評価方法をよりバイアスの少ないものにしたる試行面接実施上の修正や、3回シリーズという進路指導のテーマの流れからみた学修効果の検討も今後の課題である。

〔要 約〕

学校カウンセリング基礎論の授業で行っている「試行的進路相談面接」（試行面接）の体験が、教員を目指す学生に学修面でどのような影響を及ぼすかを検討することを目的とする。進路指導は教師が最も自然にカウンセリングの技術を活用する場面である。試行面接は、カウンセリングの基礎を学びながら系統的に実施される。受講生は教師役と生徒役の両方のロールを順次交代して演じ、生徒役が面接を評価する。試行面接終了後に提出されたワークシートの記入内容をカテゴリー化によって整理し、試行面接が受講生に与える影響を検討した。試行面接は、受講生にカウンセリングの難しさを実感させると同時に、進路指導上の新たな課題の発見につながり、感受性や情緒性を活性化し、教師になることへの意欲を高めることが明らかになった。

引用文献

- 1) 生徒指導研究会：詳解生徒指導必携（改訂版）、ぎょうせい（2006）
- 2) 仙崎武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋：生徒指導・教育相談・進路指導、田研出版（2006）
- 3) 社会経済生産性本部：ニートの状態にある若者

- の実態および支援策に関する調査研究報告書，厚生労働省（2007）
- 4) 文部科学省：キャリア教育推進の手引：児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために（2006）
- 5) 小泉令三（編著）：図説子どものための適応援助：生徒指導・教育相談・進路指導の基礎，北大路書房（2006）
- 6) 國分康孝：カウンセリング心理学入門，PHP研究所（1998）
- 7) 岡本吉生：非行臨床における進路指導の活用と意味，日本女子大学紀要（家政），**53**，35-40（2006）
- 8) 富岡靖文，吉兼昭子，岡本吉生：無職少年の非行について：職業的発達の見点と類型化の試み，家庭裁判月報，**40**，77-134（1988）
- 9) 岡本吉生：中学生のいきなり型粗暴非行（森武夫（編著）：非行の理由），専修大学出版局（2000）
- 10) Rogers, C.: The Necessary and Sufficient Conditions of Therapeutic Personality Change. *Journal of Consulting Psychology*, **21**, 95-103 (1957)
- 11) Holland, J. L.: *Making Vocational Choices: A Theory of Vocational Personalities and Work Environments*. Psychological Assessment Resources. (1973)
- 12) 星野欣生：体験学習から学ぶということ，（津村俊充，山口真人（編），人間関係トレーニング，ナカニシヤ出版（1992）
- 13) Egan, G.（鳴澤實，飯田栄（訳））：カウンセリング・テキスト，創元社（1998）
- 14) 春木豊（編著）：心理臨床のノンバーバル・コミュニケーション，川島書店（1987）
- 15) Krippendorff, K: Content Analysis: An introduction to its methodology. Sage Publication, Inc. (1980)（三上俊治他（訳）メッセージ分析の技法―「内容分析」への招待―，勁草書房（1989）